東京ジャーミイ金曜日のホタバ
2007 年 2 月 16 日

イスラームにおける人間の価値

ムスリムの皆様。崇高なるアッラーは、他のどの被造物にもお与えになられなかった特長と能力を、恵みとして人間に与えられました。さらに、被造物の多くに、人間への奉仕をさせられました。崇高なるアッラーは、ご自身がこれほどの恵みと能力をお与えになられた人間から、信仰とイバーダと感謝を求めておられます。

人間の誉れは、崇高なるアッラーを知り信仰することに結び付けられたものであり、人間の価値は、アッラーにイバーダをすることに結び付けられるものです。なぜなら、アッラーは、人間のうち最も優れ、最も尊い者について、部屋章第１３節において 「人びとよ、われは一人の男と一人の女からあなたがたを創り、種族と部族に分けた。これはあなたがたを、互いに知り合うようにさせるためである。アッラーの御許で最も貴い者は、あなたがたの中最も主を畏れる者である。本当にアッラーは、全知にして凡ゆることに通暁なされる。」 と仰せられておられるからです。

つまり、人間は皆、聖アーダムと聖ハヴァに連なるものであるという面から、同等であり、氏族を誇るのは無意味なことです。真の優位さとは、アッラーへの畏怖によるものなのです。だからイスラームは、人間の肌の色、言葉、人種、種族、部族、財産、地位などには重きを置かないのです。人々の行為、信仰実践に重きを置き、それに応じて人の価値が定まるのです。識別章第７７節では次のように仰せられておられます。

「（不信者に）言ってやるがいい。「あなたがたがわたしの主に祈らないなら、かれはあなたがたを、構って下さらないであろう。」

ムスリムの皆様。預言者ムハンマド（彼の上に平安あれ）は、ある聖ハディースで、次のようにおっしゃられておられます。

「アッラーはあなた方の顔や財産を見られず。アッラーはあなた方の信仰実践や心を見られる。」

親愛なるムスリムの皆様。人間の価値は、アッラーへの信仰心の表れであるイバーダ、美徳、そして善行によって見極められます。これを定められるお方は、アッラーのみなのです。

イスラームの教えは、人々を見下すこと、嘲笑すること、悪を暗示させるような呼び名をつけること、中傷すること、嘘を付くこと、その他、人を貶める行動を禁じています。部屋章第１１節では次のように説かれています。「信仰する者よ、或る者たちに外の者たちを嘲笑させてはならない。それら（嘲笑された方）がかれらよりも優れているかも知れない。女たちにも外の女たちを（嘲笑させては）ならない。その女たちがかの女たちよりも、優れているかも知れない。そして互いに中傷してはならない。また綽名で、罵り合ってはならない。信仰に入った後は、悪を暗示するような呼名はよくない。それでも止めない者は不義の徒である。」

親愛なるムスリムの皆様。崇高な私たちのこの教えの、これらの命令を受けている以上、人々を、地方、地域、色、部族、その起源などによって価値を区別する権利は、私たちにはないのです。さらに、圧倒的事態章２２節においてアッラーは、預言者ムハンマド（彼の上に平安あれ）に対して「だからあなたは訓戒しなさい。本当にあなたは一人の訓戒者に外ならない。」 と仰せられておられます。つまり皆、その勘定をアッラーに委ねるのです。

今日のホトバを、夜の旅章第８４節で締めくくりたいと思います。

「言ってやるがいい。「各人は自分の仕方によって行動する。だがあなたがたの主は、誰が正しく導かれた者であるかを最もよく知っておられる。」